



「先生、オレ、何にむいてるのかなあ？」 ～「自分とは」と問い続け、 自己の未来を見据えるキャリア学習～

大館市立有浦小学校 教諭 田村 直子

1 はじめに ～Key word：現実吟味・適性・単元構成～

進路の探索・選択に関しては、小学校段階は「基盤形成の時期」とされているが、高学年担任の経験を重ねる中で、『もう一歩ふみこんだ指導が可能ではないか。』という考えをもつようになった。本稿では、平成23～25年度の3年間に実践した、6年生におけるキャリア学習の一端を報告したい。

2 平成23年度 ～桂城小学校6年生での実践（11月～3月）から～

総合的な学習の時間を核として、主に職業探索にかかわる単元を2つ設定した他に、教科・領域の中から関連する主な内容を取り出して、総合的に学習を進めた。

- 「色々な職業を調べよう」（総合的な学習の時間）…………… 4時間
- 「未来予想図を作ってみよう」（総合的な学習の時間）…………… 2時間
- スピーチ「I want to be a～」（外国語活動）…………… 4時間
- スピーチ「今、わたしは、ぼくは」（国語）…………… 7時間

〈実践例〉「未来予想図をつくってみよう」

進学先の高校、専門学校、大学、資格取得、就職先、住居、結婚、出産など、小学校卒業後の20年間の「予定」を、なるべく具体的に考えさせた。子どもたちは自分が主人公になった未来予想図に向き合うと、現実的な視点で自分の未来について考え始めた。

3 平成24年度 ～有浦小学校6年生での実践（11月～3月）から～

有浦小学校では、キャリア教育において、「地域の人材が最高の教材」「子どもに夢を」を合い言葉にしている。6年生におけるキャリア学習では、現実的な視点で考えることもできるよう配慮しながら、前年度の実践に手を加え、総合的に単元を組んで実施した。

（1）「色々な職業を調べよう」の実践

- ・活動内容は前年度桂城小で実施したものとほぼ同じである。ただし、活動の中で、教師が現実的な視点や適性を加えて助言することを試みた。
- ・対話の第一段階として「どうして野球選手になりたいの？」などと職種選択の理由をたずね、動機を尊重するよう配慮した。そして第二段階として、「B君は教えるのが上手だから、コーチもいいね」などと、その子どもの長所も交えつつ、助言を試みた。
- ・対話の結果、子どもたちは、「そうか、その手もあるか」「スポーツトレーナーなんて、いいなあ」などと新しい視点をもって調べ学習を進めることができた。

（2）「夢講座」の実践

- ・本単元は複数名の外部講師による授業が中心で、子どもたちは2日間で4人の外部講師

の方々のお話を聴くことができるよう設定している。

- ・子どもたちからは、「その仕事に就きたいという気持ちが、強くなった」「なりたいものを早く見付けて頑張っていこうと思った」といった前向きな感想が出ていた。
- ・夢講座後、発表題にある「先生、オレ、何にむいているのかなあ」という言葉が学級の子どもから出るようになった。自分の適性や、自己の未来を、現実的な目をもって考える子どもが出始めたのである。『小学校での進路探索、もう一歩いけるのでは』という実感や手応えを感じた。

4 平成25年度～有浦小学校6年生での実践（10月～）から～

6年生担任の3年目は、過去2年間の実践と子どもたちの様子を基に、子どもの自尊感情を高めつつ、自己を見つめ、その考えをまとめ、発信していくことができるよう、下図のように総合的キャリア学習を構成した。

(1) 単元構成の工夫

- ・今年度は、昨年度2月下旬に実施した「夢講座」を12月に実施した。3学期は自分の考えを発信する時期としてとらえ、保護者へのスピーチや4年生への英語劇の発表などの活動を予定している。

(2) 適性と長所について考える時間を設定

- ・今年度は新たに、自己を見つめる機会、自尊感情を高める機会として、適性と長所を考える時間を設定した。適性については、30程度の職業をなりたい職業とそれ以外の職業に分け、その理由を考えるといった活動を設定した。子どもにとって自分自身を分析する活動は新鮮だったらしく、熱心に取り組んでいた。

5 おわりに

6年生における3年間のキャリア学習の実践を通して、進路に関して様々な角度から考えること、そしてそれが可能となるような単元構成を工夫することで、6年生段階では、進路・職業探索について、一歩も二歩も踏み込んで考えることができると感じている。

今後も、子どもが中学校へ希望と決意をもって進学することができるよう、個々に応じたよりよいキャリア単元をつくり、子どもの未来を応援していきたいと思う。

